

大規模火山噴火時の地域防災

第1部 何が起きるのか、何をなすべきか

2014年の御嶽山噴火による人命被害、全島民が避難した2015年の口永良部島噴火、大規模噴火の可能性が指摘されている桜島など、火山噴火に対する防災・減災の取り組みは喫緊の課題です。本ワークショップの第1部では、大規模噴火時に何が起きるのか、それに対処するために何を準備しておくべきかについて、大学、地方自治体や民間の防災担当者、住民の方を交えて議論します。第2部では、大正噴火級大噴火の再来に備えた火山観測や防災・減災に資する最新の技術開発を紹介します。

第2部 大規模火山噴火時に立ち向かう最新技術開発



日時：平成28年3月5日（土）

開場 9:30
10:00～12:30（第1部）
開場 13:30
14:00～17:00（第2部）

場所：鹿児島大学共通教育棟1号館125号講義室

プログラム（予定）

第1部 何が起きるのか、何をなすべきか

司会：下川悦郎（鹿児島大学地域防災教育研究センター 特任教授）

1) 大規模噴火の歴史

「大規模噴火の実例」

小林哲夫 鹿児島大学名誉教授

2) どんなことが起きるか

「大噴火でどんなことが起きるか」

三田和朗（株）ホウセイ・技研常務執行役員技師長

3) 何を準備すべきか

「災害時の体制」

大竹俊光 鹿児島県危機管理防災課

「セーフコミュニティによる取組」

郡司清隆 鹿児島市危機管理課

「病院の準備、家庭の備え」

内山美香 鹿児島大学病院救急病棟副師長

第2部 大規模火山噴火時に立ち向かう最新技術開発

司会：熊谷 博（次世代安心・安全ICTフォーラム企画部会 部会長）
（情報通信研究機構耐災害ICT研究センター副研究センター長）

1) 基調講演

「大規模噴火の監視と防災の課題」

山里 平 気象研究所火山研究部長、前鹿児島気象台長

2) 技術セッション

噴火被害の観測・予測・減災技術の最前線

コーディネータ：臼田裕一郎 防災科学技術研究所

「災害リスク情報の共有と利活用」

臼田裕一郎 防災科学技術研究所

「九州防災・火山技術センターの役割」

永吉修平 国土交通省九州地方整備局

「大規模噴火の降灰予測」

新堀敏基 気象研究所

「雲の上から火山の状況を把握—航空機搭載SAR—」

浦塚清峰 情報通信研究機構

「地域内の通信と情報共有を実現する途切れにくいネットワーク」

井上真杉 情報通信研究機構

「滞空時間の長い無人機による無線中継と災害モニタリング」

三浦 龍 情報通信研究機構



自衛隊による吹き出しの様子



桜島フェリーによる緊急避難訓練の様子



無線中継用無人航空機

© NICT

お申込み方法

参加費は無料です。

【ワークショップ開催の概要と最新情報】

詳細は下記（左）QRコードを参照して下さい。又は
<http://ictfss.nict.go.jp/kagoshima2016/>

【参加申し込み】

①下記（右）のQRコードを携帯電話・スマートフォン等で読み込んでください。
②送信メールが立ち上がります。本文内の【お名前】、【お電話番号】欄にご入力して送信してください。
ictfss-2016-kagoshima@ml.nict.go.jp



【プログラムの詳細】



【参加申し込み】

お問い合わせ

鹿児島大学地域防災教育研究センター

〒890-0065 鹿児島市都元1-21-40 産学官連携推進センター棟2階

☎ 099-285-8919

E-mail: dbase@gm.kagoshima-u.ac.jp

【主 催】 鹿児島大学地域防災教育研究センター

次世代安心・安全ICTフォーラム

【後 援】 内閣府（防災担当）※・文部科学省※

国土交通省九州地方整備局

総務省九州総合通信局

【協 力】 防災科学技術研究所※・情報通信研究機構※

※現在、申請中



共通教育棟1号館
125号講義室